

大相撲では、土俵は、女性が上がってはならないとされてきた。実際、太田房江元大阪府知事や森山真弓元官房長官が土俵で表彰杯を授与したいと申し出たが、いずれも拒否されている。

4月4日に、世間を騒がせる事件が起きた。舞鶴市の大相撲巡業で挨拶をしていた市長が倒れ、複数の女性、倒れた市長を助けようと土俵に上がった。すると、「女性の方は土俵から降りてください」との場内放送が流れた。土俵に上がった女性は、一旦は降りようかと躊躇したが、見捨てられないと思ったのだらう、再び、市長の救助に向かった。心臓マッサージ等、迅速な応急処置が施され、市長は一命を取りとめた。

問題はそれだけでなく、女性が土俵から降りた後、土俵に大量の塩がまかれた。それについて、日本相撲協会からは、「女性が土俵に上がったからまいたわけではない」との回答があったが、真意はわかっていない。その後の巡業先である兵庫県宝塚市でも、中川智子市長が、土俵上でのあいさつを断られている。

なぜ女性が土俵に上がれないかを調べてみると、土俵は男が命懸けで戦う神聖な場であり、神事と密接な関わりがあるとされ、女性を土俵に上げないことが伝統とされている

伝統といのち

ようだ。

信仰や伝統を理由に、土俵の女人禁制を肯定する声がある一方で、性差別の観点から女人禁制への批判もある。このような賛否両論の意見がある中で、信仰や伝統を変えることは、大変なエネルギーが必要だらう。

ただ、古いきたり以上に、人命を守る事が重要である。看護師や医師など、救命の知識や技術を有する人であれば、人命を守る使命感から、自ずと助けに向かう。人がどんな場所でも倒れていても、助けが必要なる人を救うことが大切である。

男女平等の世の中で、性別によりやつていいことといけなことがあるのは、時代にそぐわなくなってきた。今回の事件を受けて、信仰や伝統も大切にしなければならぬが、人が生きていくには何が大切かを考え、柔軟な対応ができるよう変わっていかばいいと思う。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569